

I <報告>

(1) 第8回啓発部会

2022年度第8回啓発部会を3月25日（土曜）14:00～16:30、田川市民会館で行いました。参加者は10名でした。

① 啓発の現状と課題等

◇出口真紀子「マジョリティの特権とマイクロアグレッション」 [増刊号『部落解放』『部落解放・人権入門』2023, pp. 27-46.] の輪読。

○マイクロアグレッションについて考えることで、差別に気づくだけではなく、その時カウンターとしてどう返すことができるか。考えるための一端としてこのテーマを取り上げた。また、本年12月からヒューマンアルカディアが、BURAKU HERITAGE との共同企画で本テーマでの講座をする予定。

② 研究協議から

○市民啓発の際、「マイクロアグレッション」を分かりやすく邦訳するとどう説明になるか。文中の事例は差別ではないかと思うが、実感をもたせるための説明が難しい。

○聴覚障がい友人がタクシーに乗る際、そのしゃべる様子から「どちらの国から来たの？」と必ず訊かれたり、在日の友人が公民館で「僕は君を少しも差別してないよ。同じ日本人として考えているよ」と言われたりしている事例のように、周りの人びとがあまりにマイノリティ差別の実際について知らなさすぎる現状がある。

○アンコンシャスバイアス（☆キーワード）とマイクロアグレッションとをセットで考えていく。

○マジョリティの特権をしっかりおさえた上でマイクロアグレッションを説明されるととても分かりやすい。

○「差別する人としらない人」ではなく、「差別する人となくす人」と考えるのがよい。

○市民啓発のターゲットは「無関心層」だと考える。人権について無関心であるかもしれないが、無関係ではないはずである。

○市民意識調査 18歳～29歳の若年層は、個別具体的な人権問題に対して「問題がある」に○印をつけた数が圧倒的に多い。しかし、「人権に関心があるか」では「関心がない」が多いという矛盾が生じている。SNS等を通して個別具体的な問題について知ることができるが、それが人権問題とわかっていないという現状が、その要因ではないかと考えられる。

○A市の若年層では部落問題について「問題ない」が多くなっている。また、部落問題との出会いが「小学校」という回答がぐっと減少した。B市では逆の結果が出ている。

○人権問題については、もっと可視化が必要。袴田事件も記事として広められたことで広範に認知されている。

【☆キーワード】アンコンシャスバイアス

「無意識の偏見」と訳されること多い。誰かと話すときや接するとき、考える前に、瞬間的かつ無意識に生じる思考プロセスの一つで瞬間的かつ無意識に生じる思考プロセスの一つで、コントロールすることが難しいとされている。例として、「若者はフットワークが軽い」「高齢者は頑固だ」「女性は優しく対応してくれる」「この人は〇〇だからこうだろう」「ふつう〇〇だからこうだろう」などの思いこみや固定観念が挙げられる。これらは時として、差別する意図がなくても、結果的に、他の人の自由な発言や活躍を妨げる要因となると言われている。アンコンシャスバイアスは、日常にあふれていて誰にでもあるもので、そのことそのものが悪いことではない。気づかないうちに「決めつけ」たり、「押しつけ」たりしてしまうことがないようアンコンシャスバイアスがあることによる悪影響が生じないように意識改革と理解の促進を図ることが大切である。（参考 （株）朝日新聞社発行「知恵蔵」他）

(2)第31回三・一文化祭

3月26日（日）「第31回三・一文化祭」（主催：三・一文化祭実行委員会）が、福岡市立香椎浜小学校体育館で4年ぶりに開催されました。三・一文化祭は、植民地時代の1919年に起きた日本からの独立運動に由来しています。「多文化交流マダン（広場）～出会い・交流・共生～」をテーマに、ノリマダン（民俗あそび）や楽器体験ワークショップ、コリアンクイズ、K-POPのダンス、参加者によるチョゴリ・ファッションショーなど、朝鮮半島の文化を体験できる文化祭でした。（M）

Ⅱ＜お知らせ＞

「2023年度 公益社団法人福岡県人権研究所 定時会員総会」

日時：5月28日（日）13:30～

場所：（公財）福岡県人権啓発情報センター（ヒューマンアルカディア）視聴覚研修室
（春日市原町3丁目1-7 JR春日駅前）

*2023年度の研究所主催の各部会・講座の開催等の詳細については、ホームページに掲載します。

☆ホームページ

<https://www.f-jinken.com>

〔人権研究所の出版物〕

新谷恭明『校則なんて大嫌い！ー学校文化史のおきみやげー』

久米祐子『子どもから障害児を「分けない教育」の戦後史インクルーシブ教育とはー』

木村政伸『教室の灯は希望の灯 自主夜間中学「福岡・よみかき教室」の二五年』

関 儀久『感染症と部落問題 近代都市のコレラ体験』

森山沾一・和智俊幸・横田司・坂田美穂『殉義の星と輝かん～百年生きる「解放歌」と柴田啓蔵』

部落史研究部会/史・資料プロジェクト『2020/2021 史・資料プロジェクト報告集「身分」を考える』

木村かよ子「ポストカード」5種5枚セット 500円

☆お求めは

<https://books-f-jinken.raku-uru.jp/>

☆ニュースのバックナンバーは下記研究所公式サイトでご覧いただけます。

<http://www.f-jinken.com/news/iberacion.html>

◇みなさんの投稿お待ちしております。

ニュース担当：峰

info@f-jinken.com (登録解除はこちらから)

【公益社団法人福岡県人権研究所は、会員の会費で運営されています。】